

業務の新聞

第31号 平成30年 10月13日

申13号交渉を行う

10月4日、申13号「常磐線特急の車掌乗務体制見直しに伴う運用改正について」に関する申し入れの交渉を行いなした。

地本申13号は、職場で日々お客様と接し安全・快適・サービスを提供してきた組合員の経験・責任・自信をもとに作成しました。

会社回答では、「車掌は『人ならではの創造的な仕事』に注力する。お客さまが求める『輸送サービス』を提供するなどこれまでにない表現がなされていました。

交渉では、地本側から①「創造的なしごと」とは？現行業務の+αということか？②職場でのコミュニケーションが大切③“自動運転”“ワンマン運転”など「変革2027」の提示は大きく、職場では混乱している④今後の特急列車の位置づけと特急列車車掌の業務をどの様に考えているか⑤検証結果を明らかにすること、検証した感想は⑥一人乗務の問題点⑦サービスの低下を感じる⑧クレジット決済、多目的室利用、個人対応など疑問を感じる⑨お客様の要望は多種多様であるなど提起し論議しました。

支社側からは、①「創造的な仕事」として“示すもの”はない②お客様の“ニーズを超えたサービス”の提供③職場でのコミュニケーションは大切④人にしか出来ない業務に注視したい⑤現段階で特急列車車掌の省略は考えていない⑥検証結果だけで一人乗務を決定したわけではない、総合的判断である⑦現場と協力しながらやっていきたい⑧柔軟な対応したい⑨サービスの低下はない⑩検証していくなどでした。

申13号交渉に出席して

『変革2027』を職場で提起されて以降、将来への不安、会社施策への疑問、職場でのコミュニケーションの“質”などの組合員の声が多く寄せられています。

申13号交渉では①『人ならではの創造的な仕事』②『お客様のニーズを超えたサービス』③『人にしか出来ない仕事』など初めて聞く内容の“疑問”を払拭することは出来ませんでした。

お客様に日々接する社員が疑問を有したまま業務を担うことは、安全・サービスなどの面からもマイナスです。文字で表されただけの施策をその目的に向け実行するために、職場において検証、課題の抽出、課題・問題点の克服に取り組まなければなりません。

否定的な現実立ち向い、それを改善することが労働組合の責務です。日々発生する問題や疑問を放置することなく拾い集め、地に足をつけた活動を進めましょう。

変革2027

「変革2027」という“錦の御旗”を掲げただけでは、ダメだと考えます。私たちが業務にもつ自信と責任において、この会社の未来を考えて行くことが大切だと考えます。

私たちは、『生きるために』この会社にあります。

ただ『生きる』のではなく「現場を知っている」私たちの最大の力を発揮して、シッカリ『生きるために』文字通り活動して行くことを大切にして行きましょう。